この心術　懈倦（げけん）することなかれ

身分不相応とも思える大誓願に燃え、昭和五十九年一月十五日、善光寺海外留学僧派遣育英会を設立し、翌年に第一次留学僧として田中・梅田の両君をタイ国のワット・パクナムに派遣しました。このときは、薄氷を踏むの思いで今日に及んだことも事実であります。それだけに、ひと口食べ物を減らしてまで私の大誓願を支えてくださる檀徒の方々に満腔の謝意を表するものであります。

去る八月二十三日、第三回総会を開きましたが、その席上、前記梅田兄が「第一回総会のときは私ども二人だけでさびしかったですが、今回は大勢でたいへん力強く思いました」といみじくも漏らしておりましたが、総会も回を重ねること三回にして、今や十七人を八ヶ国に派遣するという成果を報告し得ております。「中外日報」は「異教徒からも高い評価」という見出しのもとに第三回総会の意義を大きく取り上げ高く評価して下さっております。

そして総会終わって三日後、佐藤老師と共にアメリカに渡り、ロスアンゼルスの禅センター山の道場に赴き、十四ヶ国六十数名の修行者と共に九旬安居の弁道にはげむ岩波君の元気な姿に接し、ついでニューヨークにおいては、前角老師の高弟ロバート・グラスマン・徹玄師のもとで精進している越石君に辞令を交付してまいりました。島崎君は、徹玄師の法弟デニス・メルツェル・玄法師と共にポーランドに行っておりますので会えませんでしたが、この旅を通じて、人材育成の重要性を痛感いたし、今後一層の努力精進をと心に銘じております。

ねがわくは、われ一切衆生と、今生より乃至生生をつくして、正法をきくことあらんとき、正法を疑著せじ、不信なるべからず。まさに正法にあはんとき、世情をすてて仏法を受持せん。ついに大地有情ともに成道することをえん。

かくのごとく発願せば、おのずから正発心の因縁ならん。この心術、懈倦（げけん）することなかれ。（『正法眼蔵（しょうぼうげんぞう）』「谿声山色（けいせいさんしょく）」）

法句経

巻頭言　黒田武志（大圓）　4

カラー■中国の仏

特集●海外留学僧派遣育英会の将来について……東　隆眞　18
●四年間で計十七人に

エッセイ●バンコックの僧院生活……黒田　武志　26
●いのちの尊さ……吉田　雄鳳　29

留学記●博士論文の完成から出版まで……阿部　慈園　33
●闇に生気湧くインド……保坂　俊司　37
●インドの家族……清水　晶子　41

連載●禅と衣食住(6)お茶は薬……東　隆眞　45

論文●二十一世紀の仏教と私の役割……星宮　智光　48
●中道実践の「正」観に関する一考察……洪　淳海　55
●トウドンと供養の旅……渋井　修　60
●禅の国際化と私の役割り……バシュー・ルース浄信　72
●21世紀の仏教と私の役割り……森　雅秀　75

レポート●良寛様の生き方から思い付いたこと……李　幼麟　83
●さよならの箱……山本　瓔子　89

詩

善光寺だより……92

読者からのお便り……94

題字・グラビア・さし絵　伊藤三喜庵　96
グラビア撮影　五十嵐千彦
カット　古刷仏集より